2009年度

科目名	国際協力論B				
担当教員	岡島　克樹				
配当	人社2			コード	53610
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	日本と途上国のつながりをよりよいものにするにはどうすればいいのかを考える。				
目的と概要	現在のグローバル化する世界構造のマイナス面を是正し、プラス面を拡大する動きとしての国際協力とは何かを考えるとともに、国際協力を行う国連機関や政府系機関、非政府機関（NGO）とその具体的な諸活動について学ぶ。				
成績評価法	授業への参加・協力（発言・グループワーク・とくに外部講師招聘時の参加）（20%）、期末レポート（80%）				
テキスト	特に定めない。				
参考書	適宜、紹介する。				
履修に当たっての注意・助言	3回生時に履修可能である「地域研究実習」の一環として実施しているカンボジアスタディツアーに参加を希望する学生は、この「国際協力論」との関連が強いので、受講をお勧めする。				

講義計画

講義は、国際協力の機関や分野に関する基本的な文献の読解の他、海外青年協力隊の活動を紹介する外部講師やビデオ、NGOの活動を紹介する外部講師を招くなど、国際協力の現場をより想像しやすいようにしながら、展開する。

1. 国際協力の諸目的（その1）:「開発」概念の変遷―経済開発・社会開発・人間開発・「人間の安全保障」
2. 国際協力の諸目的（その2）:　前回の続き
3. 国際協力のアクター（その1）:国際協力の様々なアクター（総論）、国連機関（各論1）
4. 国際協力のアクター（その2）:NGO事例紹介その1（外部講師）
5. 国際協力のアクター（その3）:NGO事例紹介その2（外部講師）
6. 国際協力のアクター（その4）:日本のODA実施機関（各論3）ODAの目的（外交・日本の経済振興・人間としての共感）、政策体系、実施機関
7. 国際協力のアクター（その5）:日本のODAの諸特徴
8―9. 国際協力のアクター（その6）:JICA大阪国際センター訪問（2回分を1回として実施）
10. 国際協力の案件形成・評価方法（その1）:　PCMを学ぶ意味・PCMの歴史
11. 国際協力の案件形成・評価方法（その2）:　PCMの基本ステップ
12. 国際協力の案件形成・評価方法（その3）:　PCMを使った問題分析・目的設定の実践
13. 国際協力の案件形成・評価方法（その4）:　PCMを使った企画案作成（PDM作成）・評価5項目
14. レポートの書き方指導
15. まとめ

本講では、予算の許す範囲において、大学の外にある人材を外部講師として学内に招き、国際協力の現場について語っていただくので、外部講師が話をされる回については必ず参加するようにしてください。外部講師が来校される日程が決まり次第、講義の中で伝達する。

また、2年前から、学外授業として、JICA大阪国際センターを訪問している。受講生は必ず参加するようにしてください。